

# 女性の“働くこと”についての調査（ダイジェスト版）

千葉市女性センターでは、平成20年度の事業として、「女性のための“働くこと”についての調査」を実施しました。この調査は、女性の現在までの働き方の実態、また“働くこと”に対する意識やこれからの希望を探り、女性の意欲と能力が発揮される男女共同参画社会のための具体的な施策に活かすことを目的としています。

*調査の対象	千葉市にお住まいの満20歳以上60歳未満の女性3,000人(無作為抽出)
*調査の方法	郵送配布—郵送回収法
*調査の期間	平成20年12月11日～平成20年12月27日
*回収の状況	有効回答数：1,484件（有効回答率：49.5%）

注1) %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記しているため、%の合計が100%にならないことがあります。

注2) グラフは、内容に応じて、抜粋したものを掲載しています。

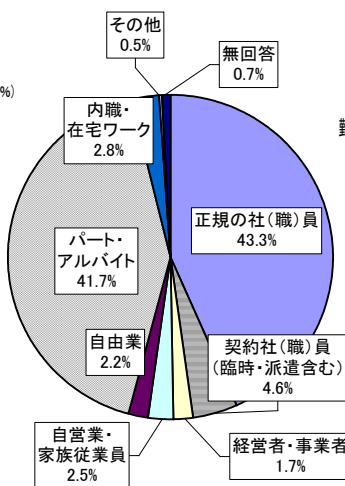
## 1. 女性の就労意識

仕事をする目的や意味は、「生活維持や家計補助のため」(64.4%)が最も高くなっています【図表1参照】。望ましい就労形態は、「正規の社(職)員」と「パート・アルバイト」がそれぞれ4割を超えています【図表2参照】。望ましい就労形態を選ぶ理由は、「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから」(47.0%)が最も高くなっています【図表3参照】。

また、結婚によって「正規の社(職)員」希望から「パート・アルバイト」希望へと、大きく変化しています【図表4参照】。

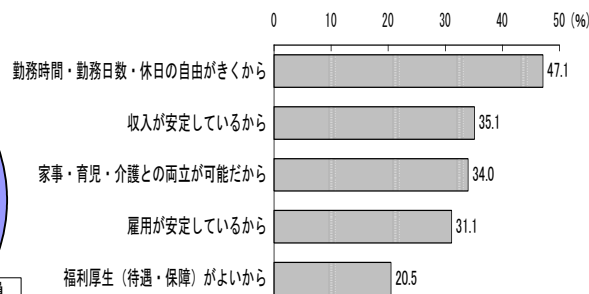
図表2 望ましい就労形態

(全体、n=1,484)



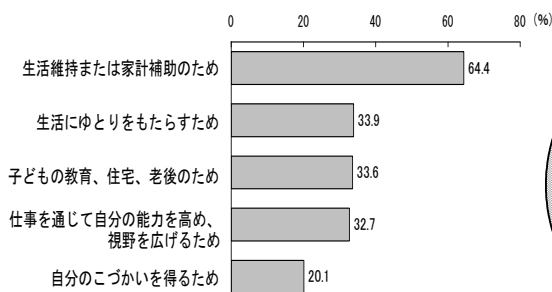
図表3 望ましい就労形態を選んだ理由

(全体、n=1,484)

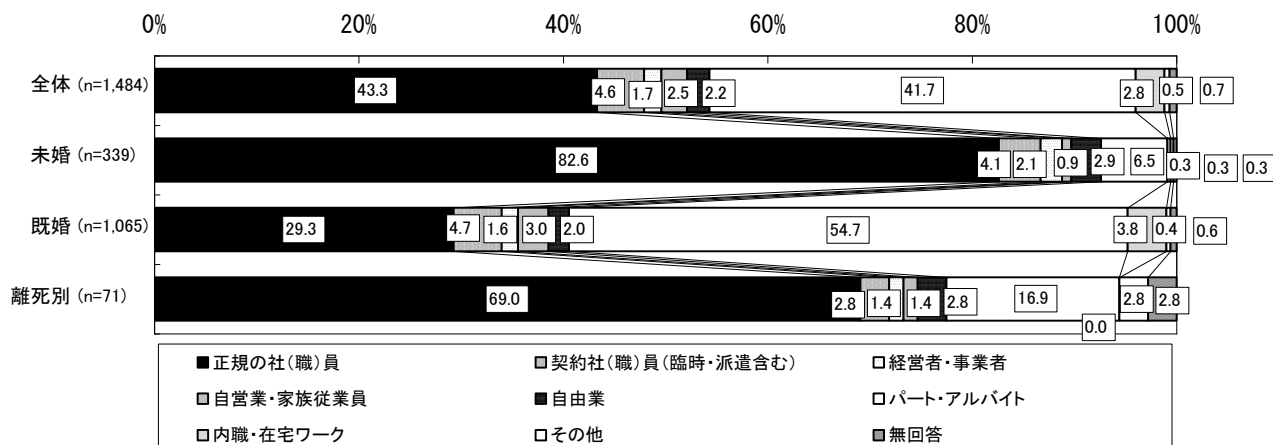


図表1 仕事をする目的や意味

(全体、n=1,484)



図表4 望ましい就労形態(結婚の有無別)



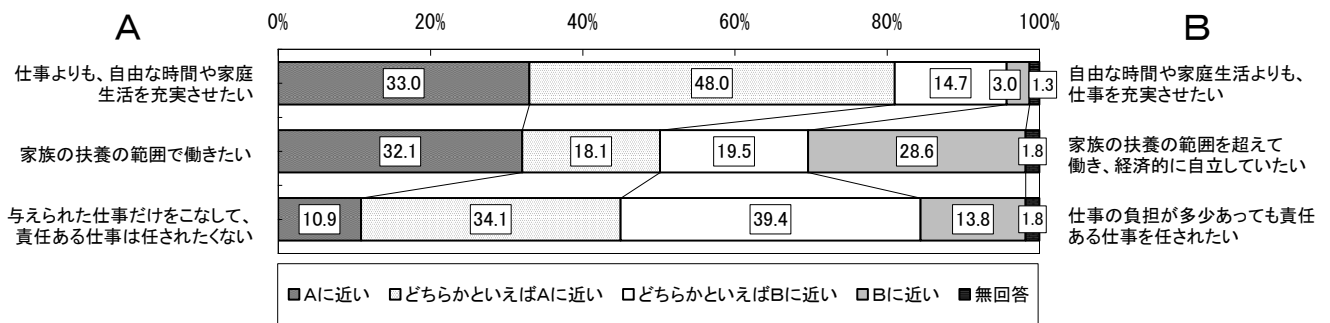
## ■ 仕事をする上で重視すること【図表 5 参照】

仕事をする上で重視することについては、「自由な時間や家庭生活よりも、仕事を充実させたい」より、「仕事よりも、自由な時間や家庭生活を充実させたい」と回答しています。

「家族の扶養の範囲で働きたい」と「家族の扶養の範囲を超えて働き、経済的に自立していきたい」では、意見が分かれます。「正規の社(職)員」「契約社(職)員(臨時・派遣含む)」では、「家族の扶養の範囲を超えて働き、経済的に自立していきたい」の割合が高くなっていますが、「パート・アルバイト」では「家族の扶養の範囲で働きたい」を望んでいます。また、「就労していない」では、「家族の扶養の範囲で働きたい」が約8割を占めています。

一方、「与えられた仕事だけをこなして、責任ある仕事は任されたくない」と「仕事の負担が多少あっても責任ある仕事を任されたい」でも、意見が分かれています。

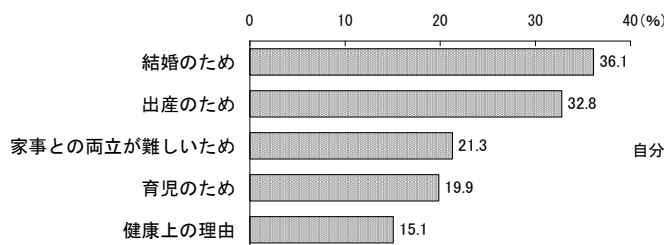
図表 5 仕事をする上で重視すること(全体、n=1,484)



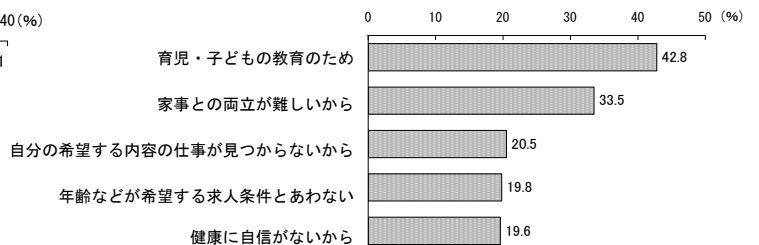
## 2. 就労していない方(無償労働者)の現状

就労していない方に前職を離職した理由をたずねたところ、「結婚」「出産」を理由にそれぞれ3割以上の方が離職しています【図表 6 参照】。また、現在仕事に就いていない理由を「育児・子どもの教育のため」と回答しています【図表 7 参照】。

図表 6 離職理由(全体、n=418)



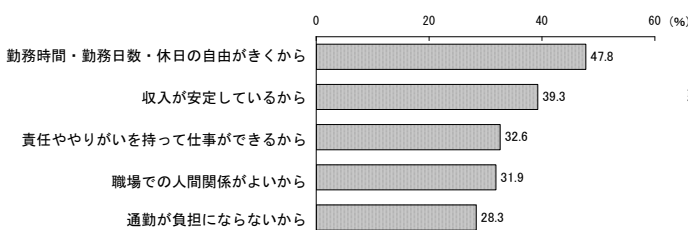
図表 7 現在仕事に就いていない理由(全体、n=439)



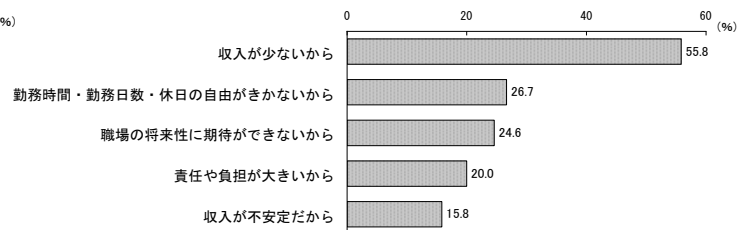
## 3. 就労している方(有償労働者)の現状

現在就労している方は仕事に「満足」(「非常に満足している」「ほぼ満足している」を合わせた割合)が5割以上を占めており、「パート・アルバイト」では「勤務時間・勤務日数・休日の自由がきくから」が高く、「正規の社(職)員」では「収入が安定しているから」「責任ややりがいを持って仕事ができるから」と感じています【図表 8 参照】。現在の仕事に「満足していない」理由は、「収入が少ないから」と感じています【図表 9 参照】。

図表 8 現在の仕事に「満足している」理由(全体、n=540)



図表 9 現在の仕事に「満足していない」理由(全体、n=240)



## ■職場で利用できる制度

職場で利用できる制度は「産前産後休暇」が最も高く、「正規の社（職）員」以外の就労形態では、「わからない」「いずれもない」と回答しています【図表 10 参照】。

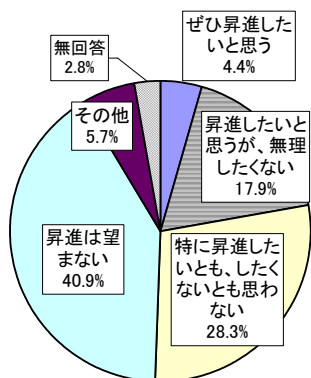
図表 10 管理職への登用希望(全体、n=1,041)

		(%)												
		産前産後休暇	通院休暇 妊娠中及び分娩後の	育児休業制度	育児費用補助	子の看護休暇	介護休業制度	介護費用補助	育児のための所定外労働をさせない制度	勤務制度・介護のための短時間	フレックスタイム制度	わからない	いずれもない	無回答
全体	(n=1,041)	34.1	8.5	28.0	5.1	11.0	17.6	1.6	6.6	14.7	7.8	25.5	32.2	3.9
就労形態	正規の社（職）員 (n=356)	76.4	20.5	67.1	11.0	26.1	44.7	3.4	14.6	36.8	14.6	10.7	8.7	1.4
	契約社（職）員 (臨時・派遣含む) (n=145)	22.8	4.1	17.2	6.2	4.8	9.0	2.8	2.8	4.8	6.9	29.7	32.4	6.2
	経営者・事業者 (n=19)	5.3	5.3	5.3	-	10.5	-	-	-	5.3	10.5	5.3	73.7	5.3
	自営業・家族従業員 (n=46)	15.2	6.5	6.5	6.5	4.3	4.3	2.2	6.5	6.5	4.3	19.6	60.9	4.3
	自由業 (n=14)	7.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21.4	71.4	-
	パート・アルバイト (n=441)	8.6	1.4	5.4	0.2	2.0	2.0	-	2.3	2.5	3.4	37.6	44.2	5.2
	内職・在宅ワーク (n=13)	15.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30.8	53.8	-
	その他 (n=7)	14.3	-	-	14.3	14.3	-	-	-	-	-	14.3	42.9	14.3

## ■管理職への登用希望

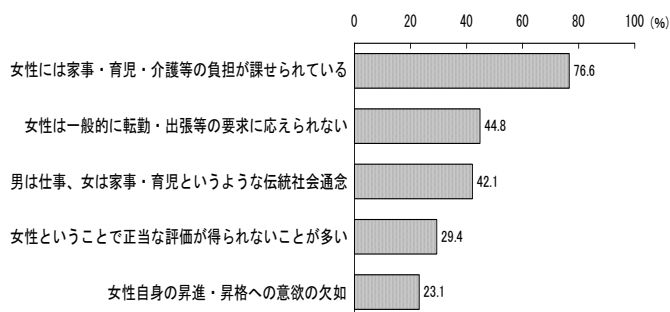
管理職への登用希望をたずねたところ、「昇進は望まない」の回答が最も多く、約 4 割を占めており、「ぜひ昇進したいと思う」を大きく上回っています【図表 11 参照】。その理由としては、「管理職になると仕事が忙しくなり、家庭生活やプライベートと両立し難いから」を挙げています。そこで、昇進・昇格の障害についてたずねたところ、「女性には家事・育児・介護等の負担が課せられている」としています【図表 12 参照】。

図表 11 管理職への登用希望(全体、n=1,041)



図表 12 女性の昇進・昇格の障害となるもの

(全体、n=1,041)

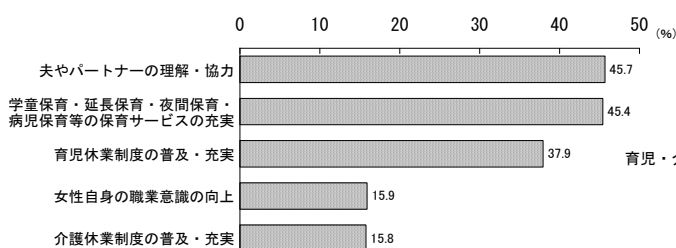


## 4. 女性が仕事をする上で必要なこと

女性が意欲を持って働くためには、就労形態に関わらず、「夫やパートナーの理解・協力」「学童保育等の保育サービスの充実」が求められています【図表 13 参照】。また、仕事の継続・就職・転職において必要なものは、「職場での処遇や労働条件など雇用契約に関する情報」「再就職の知識や情報」「育児・介護・家事等の外部サービスについての情報」と回答しています。【図表 14 参照】

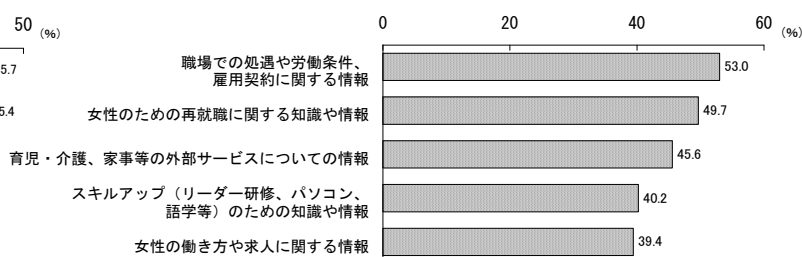
図表 13 意欲を持って働くために必要なこと

(全体、n=1,484)



図表 14 仕事の継続・就職・転職に必要なもの

(全体、n=1,484)



## **今後に向けて**

### **課題 1：多様な働き方を可能にする雇用環境の整備**

経済的自立を求めて、「正規の社（職）員」で働いていても、結婚や出産を機に退職し、仕事よりも家庭生活や自由な時間を重視して、扶養の範囲内で働こうと「パート・アルバイト」を選ぶ傾向があります。結婚や出産といったライフスタイルの変化によって、働き方に対する考え方が大きく変化します。

勤務時間や勤務日数・自由な時間を求める声が多く、様々なライフスタイルに応じた多様な就労形態が選択できるような雇用環境の整備、ならびに再就職や育児サービスの情報提供が必要です。

### **課題 2：職業能力の開発と向上・起業に対する支援**

仕事の継続・就職・転職に必要なものとして、「職場での処遇や労働条件、雇用契約に関する情報」「女性のための再就職の知識や情報」「スキルアップ（リーダー研修、パソコン、語学等）のための知識や情報」を求めています。キャリアやライフプラン、自己表現など職業能力を開発・向上するための支援が必要です。

また一方で、子育てをひと段落した後の働き方の選択肢の一つとして注目されている起業についても、経営に関する知識やノウハウなどの情報提供や研修・相談などの充実によって、起業しやすい環境を整備することが必要です。

### **課題 3：仕事と家庭生活等の両立を支援する職場づくり**

育児休業など女性の就労をサポートする職場制度が広まりつつありますが、結婚・出産を理由に離職する女性は多く、依然として両立が難しい現状が伺えます。「学童保育・延長保育・夜間保育・病児保育等の保育サービスの充実」など、育児をしながら働くことができる環境整備や情報提供などの支援が望まれます。

### **課題 4：男女がともに担う家庭生活づくり**

女性が意欲をもって働くために必要なこととして、「夫やパートナーの理解・協力」を求めています。男女ともに家族の一員として、家事・育児・介護などの家庭生活における役割を果たせるように、家庭生活における共同参画意識の醸成を図るための支援や、子育てや介護に必要な知識や技術を習得するための学習機会の提供が必要です。

発行日：平成 21 年 3 月

発行：千葉市市民局生活文化部男女共同参画課

千葉市女性センター 電話 (043) 209-8771

※なお、本調査報告書は千葉市女性センター及び市内図書館にございますので、詳しくはそちらをご覧ください。